■2026年11月1日(毎月1日発行)■発行〒160-0016 新宿区信濃町10(株)文学座■文学座公式サイト https://www.bungakuza.com■定価120円(消費税込)■

BUNGAKUZA TSUSHIN 2026.11 Vol.807

文学座通信

●創立九十周年に寄せて
歴史に眼を凝らす――――鵜山 仁……1
●本公演・地方公演『みつ豆』
鼎談|昭和と戦争のホームコメディ…… 2～4
秋之桜子×石田圭祐×高橋正徳
公演情報……5
●インタビュー
喜和子との思い出――――新橋耐子 ……6～7
●アトリエ短信……8

文学座 90th

創立九十周年に寄せて

歴史に目を凝らす

創立九十周年記念公演のレパートリーを選定しながら、不思議なくらい戦中・戦後が背景になっている作品が多いことに気づきました。戦争を通して根源的な人間の葛藤が立ち上がる、そんな様々な風景が見えてきたのです。日中戦争が始まった一九三七年に生まれた文学座が、九十年という時間の中で、どれだけの葛藤を抱えこんできたのか。劇団と日本社会との関係や、劇団という集団の意識下の問題など、長らく潜伏していたものが顕在化する時期なのかもしれません。創立期のメンバーが、激動する時局と組んずほぐれつしながら始動させた文学座史の重さを今、改めて感じています。

僕がこの劇団に入って半世紀近く経ちますが、草創期の「戦争」にまつわる話題が語られる機会はそれほど多くはありませんでした。たとえば、創立記念の集まりの翌日、俳優の友田恭助が入隊し、間もなく上海で戦死したことの意味は何なのか。以来、一九四五年の終戦に至るまで、表現の自由が厳しく制限された時代だったことも、教科書に書いてある歴史のような感覚でしか受け止めていなかった。戦時下において、先人たちがなぜ正面から権力と戦わなかったのかと気楽に批判し、文学座が旗印としていた「芸術至上主義」というお題目を、無責任に揶揄していた感覚も否めません。

しかし今、令和のこの時期に、「戦争」が前景化されつつあることで、これまで表に出なかった考え方に、別の方向から照明が当たってしまった気がします。僕たちは現に、戦争を身近な出来事として実感せざるを得ない状況にいるわけです。かつて単純な善悪二元論で割り切っていたことが、実は二極に引き裂かれた痛切な歴史だった。九十年という長期的な視野に立つことで、そんなことにも気づかされます。

僕が文学座に入った頃は、さまざま小さな葛藤はありつつも、穏やかな時代でした。だから、右のような問題が、切迫した問題として表に出てくることは少なかった。ただ、個々の記憶や体験の中に沈殿して、個別に思想化されていたのかもしれません。それが今になって顕在化してきたように感じるのは、根本的な矛盾は何も解決されておらず、だからこそむしろ、僕らの闘うエネルギーを覚醒させる時期が到来したという印なのか。

いずれにせよ、生と死、善と悪、戦争と平和――そうした二元論のうねりと格闘し続けることが、われわれの宿命なのだろうと思います。では現場は、何をどうすればいいのか。二極の狭間ですったもんだを繰り返す人間のありようを、豊かなドラマとして描く以外にない。そこに立ち上がる表情や声の魅力を、より際立たせていくしかないと思うのです。

戦争とともに産声を上げた文学座が、創立九十周年に至る時間をどうにか乗りこえてここまで生きてきた。さて今後どうなっていくのか。劇団が埋蔵している記憶から、何を引き出せるのか。そのあたりを何とか表現に結びつけ、舞台から観客席へ、この社会、この世界に投げかけたい。九十年という、人ひとりの生涯を越えようかという時間の流れに、改めて目を凝らしてみたいと考えています。



劇団代表 / 演出部
鵜山 仁

アトリエ短信

■「感謝祭2026」開催決定！

今年の感謝祭は12月15日(火)に開催します。テーマは「笑う門には感謝祭」です。詳細は追ってご案内します。

■朗読劇「放浪記」のご案内

徳島県立文学書道館の文学特別展「林芙美子の『放浪記』―徳島滞在の謎に迫る」の関連イベントとして、朗読劇「放浪記」を上演します。

◇12月6日(日)14時～15時
◇徳島県立文学書道館
◇出演＝富沢亜古、瀬戸口郁、渡邊真砂珠(以上 演技部)
◇申込締切＝11月15日(日)
◇定員＝150人
※申込多数の場合は抽選を行います。
◇お申し込み・お問い合わせ＝
徳島県立文学書道館
TEL 088・625・7485
kotonoha@bungakushodo.jp

■すみだパークシアター倉×文学座

演劇を使ったコミュニケーションワークショップを開催します。

◇12月7日(月)・8日(火)18時～21時
◇すみだパークギャラリーささや
◇講師＝石ケ森光政(jubilee studio代表)、富沢亜古、塩田朋子、横山祥二(以上 演技部)
◇料金＝1万円(消費税込・ドリンクチケット付)
◇定員＝25名 ※定員になり次第、受付終了
◇お申し込み＝ws.bungakuza@gmail.com
※お名前、お電話番号を右記メールアドレスまでお知らせください。
◇お問い合わせ TEL 03・3351・7265
(10～17時／土・日・祝を除く)

■立教大学×文学座 江戸川乱歩朗読会

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター(旧江戸川乱歩邸)との共同企画、乱歩作品の朗読会第三弾です。乱歩の短篇小説の朗読とその作品解説の二本立て。登壇者によるアフタートークも実施します。

◇12月11日(金)19時～20時半
◇立教大学 太刀川記念館 3階 カンファレンス・ルーム
◇朗読＝大原康裕(演技部)
●「毒草」
●「算盤が恋を語る話」
解説＝杉本佳奈(立教大学助教)



◇入場無料(要予約)
◇お申し込み・お問い合わせ＝
立教大学大衆文化研究センター
TEL 03・3985・4641
(10時半～16時／月・水・金のみ)
rampo@rikkyo.ac.jp
主催＝立教大学大衆文化研究センター
共催＝文学座

観劇体験をプレゼント！「ギフトチケット」について

観劇を希望していても、様々な事情で演劇にふれる機会の少ないご家庭に文学座の観劇体験をプレゼントすることのできる「ギフトチケット」(1口3千円)となります。文学座が提携する子ども支援団体を通じた、今年3年目の取り組みです。ギフトチケットご協力の旨を公演チケットお申込はがきにお書き添えいただき(またはお電話)、下記口座にご送金ください。

三菱UFJ銀行 四谷支店 普通 4360713
(株)文学座 切符代金口

◇お問い合わせ TEL03・3351・7265
(10～18時／土・日・祝を除く)

出演情報

★宝意紗友莉:『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーン オリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出)～12/27 TBS赤坂ACTシアター

★池田倫太朗、山岡隆之介:『アカメ』(八鍬健之介作・演出) ～11/5 座・高円寺1

★清水明彦:『マリラとマシュウと、アンの日々』(L・M・モンゴメリ原作、倉田淳脚本・演出) ～11/8 ウエストエンドスタジオ(西武新宿線「新井薬師前駅」より徒歩7分)

★横田栄司、平体まひろ:『兄おとうと』(井上ひさし作、**鵜山仁**演出) 11/3 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル(大阪)

★瀬戸口郁、日景温子: 朗読『真実一路』(山本有三作、**瀬戸口郁**構成台本) 11/3 三鷹市山本有三記念館

★川合耀祐:『でんすけ～余興～』(桒原秀一脚本・演出) 11/4～8 新宿シアタートップス

★日景温子: 朗読 (『夢十夜』夏目漱石作、『指』江戸川乱歩作、『蜜柑』芥川龍之介作、『注文の多い料理店』宮沢賢治作) 11/5 府中市生涯学習センター

★sara:『スリーゴースト』(サイモン・スティーヴンス作、広田敦郎訳、ショーン・ホームズ演出) 11/6～8 岡山芸術創造劇場ハレノワ, 11/12～23 Skyシアター MBS(大阪), 11/27～29 穂の国とよはし芸術劇場PLAT(愛知)ほか

★瀬戸口郁:『くもの糸、かまきりの鎌』(大石泰作・演出) 11/7 北とぴあ さくらホール(王子)

★木津誠之:『ノッキンオン・ロックドドア』(青崎有吾原作〈『ノッキンオン・ロックドドア』徳間文庫〉、浜田秀哉脚本、堤幸彦演出) 11/7～10 オリックス劇場(大阪)

★名越志保:『ベルト・モリゾ～光の庭～』(鈴木アツト作・演出) 11/7～15 吉祥寺シアター

★山森大輔、釆澤靖起:『巨匠とマルガリータ』(ミハイル・ブルガーコフ原作、エドワード・ケンプ翻案、小田島創志訳、上村聡史演出) 11/7～23 新国立劇場(初台)

★梅村綾子、キクチカンキ:犬猫会『オイル』(野田秀樹作、犬猫会潤色、**水野玲子**演出) 11/12～15 上野ストアハウス

★比嘉崇貴:『真の花や』(謝名元慶福作、小笠原響演出) 11/12～14 せんがわ劇場(調布)

★河野顕斗:『ドン・ジョヴァンニ』(W.A.モーツァルト作曲、ロレンツォ・ダ・ポンテ台本、**生田みゆき**演出) 11/14・15 日生劇場

★高橋ひろし:『煙が目にしみる』(鈴置洋孝原案、堤泰之作、**高橋ひろし**演出) 11/20～22 高田馬場ラビネスト

★原康義、鍛治直人:『間違いの喜劇』(W.シェイクスピア作、小田島雄志訳、吉田鋼太郎上演台本・演出) 11/22～12/2 彩の国さいたま芸術劇場

★富沢亜古、松本祐華:『一身上の都合により』(山崎洋平作・演出) 11/25～29 新宿シアタートップス

★川合耀祐:『たけとり KAGUYA』(佃典彦作・演出) 12/5 八尾市プリズムホール(大阪)

★映画・テレビ・ラジオの出演は 文学座 映画放送部 X(旧Twitter)@bungakuza_mg をご覧ください。